

第5号



発行所
(株)烏久
東京都大田区蒲田1-8-12
電話 03(5703)7575
発行人 小原秀之
印刷所 三盛商事(株)

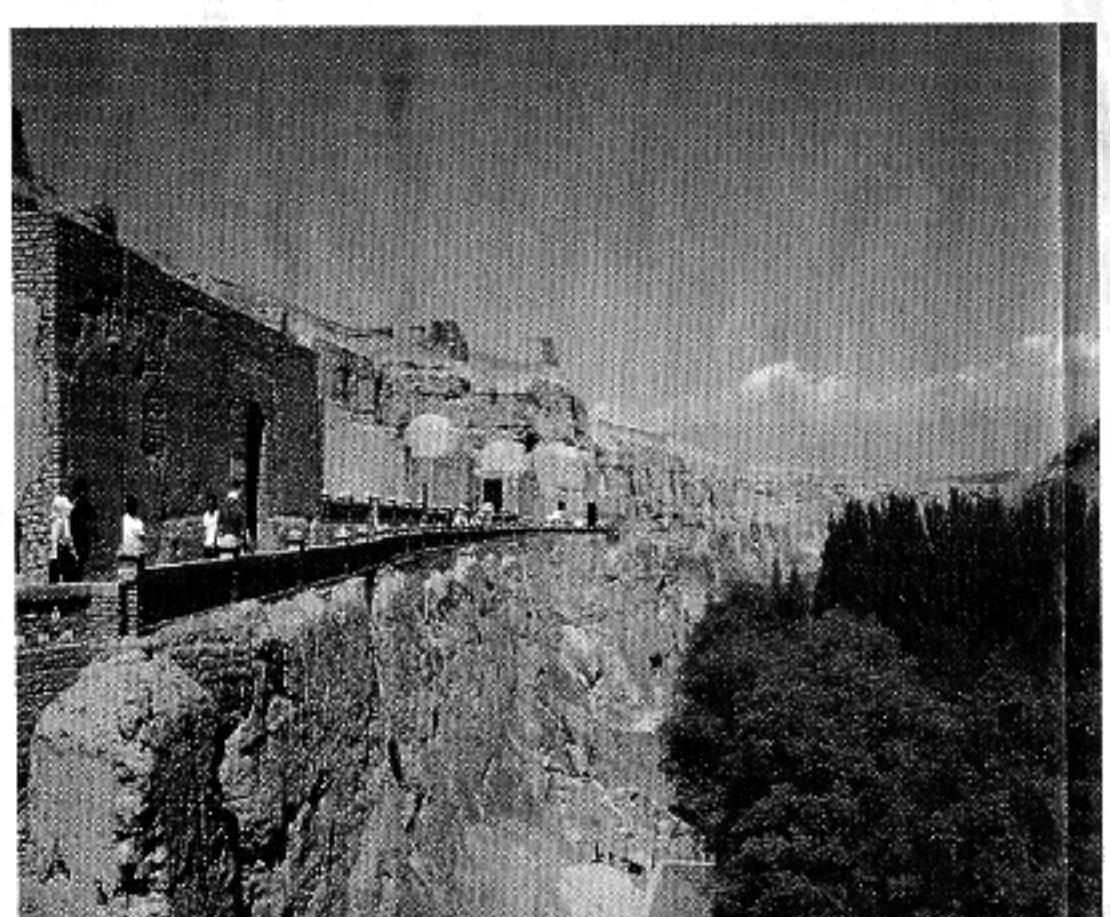
発行所
(株)烏久
東京都大田区蒲田1-8-12
電話 03(5703)7575
発行人 小原秀之
印刷所 三盛商事(株)

ウイグル族の美少女。その舞いはクルクルと回りながら踊る。いわゆる唐の都長安のバーで大人気だつた胡旋舞と唐詩に詠まれた胡姫の姿を彷彿とさせる。よく見ると少女の指先の表情は、敦煌壁画に描かれた仏たちの表情とそっくりではな
いか



胡人碧眼
胡楊綠陰
胡女旋舞
胡瓜甘露
西域維吾爾賦

トルファン郊外の高昌故城。かつて繁栄した高昌国の都城で玄奘三蔵もしばらく滞在したが、その後滅ぼされてしまった。一片の雲もない蒼空の下、三百六十度の土くれの広大な廃墟となっている。中国から中央アジアにかけては「土の文明」であることを思い知らされる。



トルファン郊外、火焰山山中のベゼクリク千仏洞。川が流れる断崖に多くの岩窟がうがたれ、ウイグル美術の最高傑作といわれる多くの仏画が描かれていた。今もその鮮やかな彩色画の一部は残っているが、侵略してきた偶像否定のイスラム教に顔の部分は無残にも破壊され、また中央ドームの窟の壁画は、ドイツをはじめ各国探険隊によって切り取られて分散した。

一回目は織田信長の安土時代であり、キリスト教文化といわれるキリスト教文化である。

二回目は明治維新の時であり、歐米の技術・文明を積極的に採り入れた。

とくに一回目の波は、日本という国の礎が築かれたときで

る広大なユーラシア文明・文化のダイナミックな仏教の姿を借りた奔流であつた。その奔流こそがシルクロードと呼ばれる沙漠の道とオアシスの国々だつた。

沙漠はタクラマカン沙漠であり、今日の中国新疆ウイグル自治区である。広さは日本列島がすっぽり四つ

濃いオアシスを点々とかたちづくりている。

シリクロードはタクラマカン沙漠をはさんで北側に天山北路と南路、南には崑崙山脈沿いに西域南道が古代より拓けていた。ハミ、トルファン、ウルムチ、クチャ、そしてカシュガルで西域南道と合流する。いずれもオアシス都市国家として栄えた輝かしい歴史をも

亡を繰り返した。

シルクロード“という響きがどうして私たちに懐かしさと憧れを呼び起させなのか。

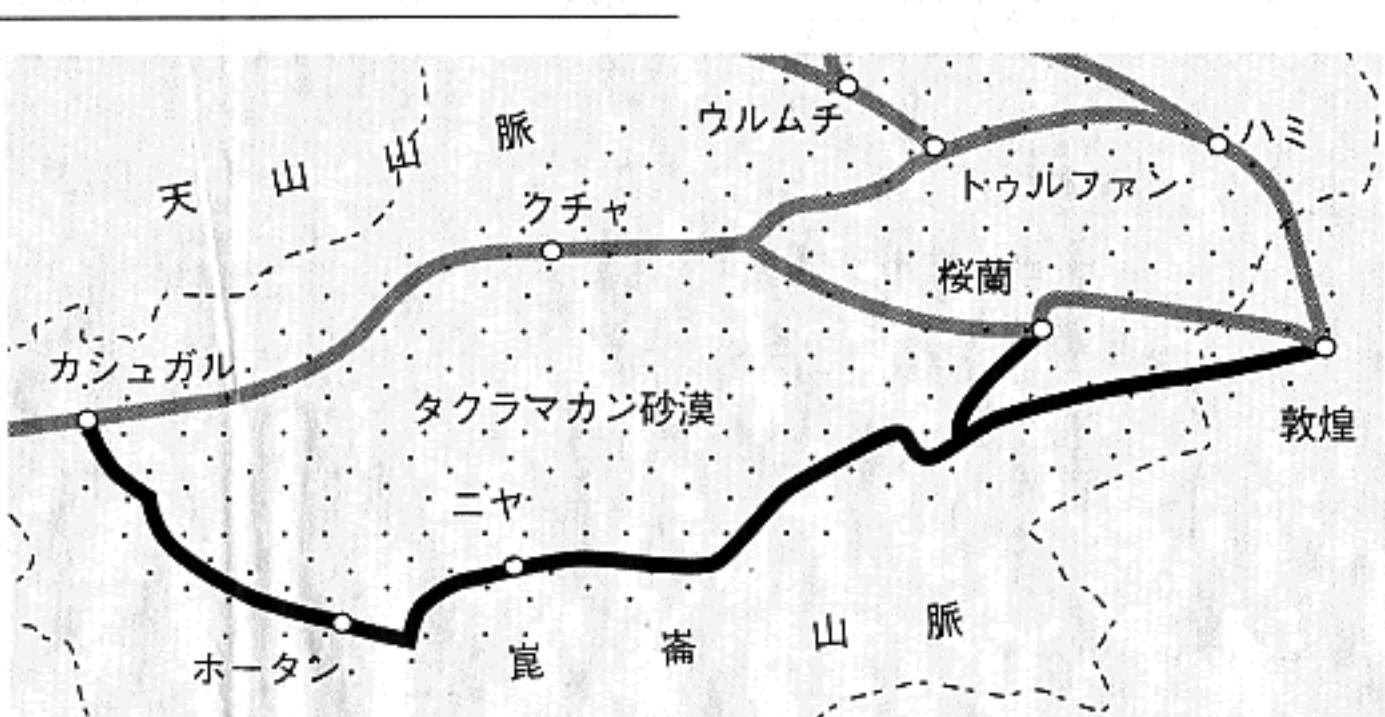
日本の歴史上、東の果てに位置する小さな島国が「世界」と出会つたのは大きく言えば、三回ある。

あり、その多大な影響とい
よりは人と物のひんぱんな
入により、私たちのそれこ
記憶遺伝子に深いヒダを刻
でいるに違はない。

も入るほどであり、灼熱の大地は夏には七十度近くにもなり、飛ぶ鳥も地を走る獸の姿もないというほどの不毛の地である。しかし、その北には五千メートルに達する天山山脈と南には崑崙山脈が屏風のようにそびえ立ち、万年雪が溶けてわざかに沙漠の緑を潤し、緑濃いオアシスを点々とかたらづくつて、ある。

A historical map of Central Asia, likely from the late 19th or early 20th century. It depicts the Silk Road network with various cities and mountain ranges labeled in Japanese. The main route starts at Kucha (クチャ) in the northeast, passes through Tianshan (天山) and the Kunlun Mountains (崑崙山脈), and ends at Kashgar (カシュガル). A secondary branch of the road leads from Tianshan to Hotan (ホータン). The city of Niya (ニヤ) is also marked. The map uses a light gray background with black outlines for roads and labels.

新疆ウイグル自治区 オアシスのウイグル族 『中国編』



シリクロード地図

毛の論理。親は子供に物や金をみだりに与えないこと、大人も子供もあいさつという基本ができること、こういうことから徹底するのがいちばん大切なのではないか。ちゃんとしっかりあいさつのできない人がよく見れば周囲にいるのではないか。そんな人が何かモノを言う資格はない。

敦煌の有名な沙漠の大画廊と呼ばれる莫高窟壁画群は古いものは四世紀位から造営されたが、これらの担い手は現在のほとんどが住民である漢族ではなく、ウイグル族による西城色の強いエキゾチックなものであった。

トルファンのベゼクリク千仏洞やクチャのギル千仏洞などシルクロードは、まさに仏教ロード

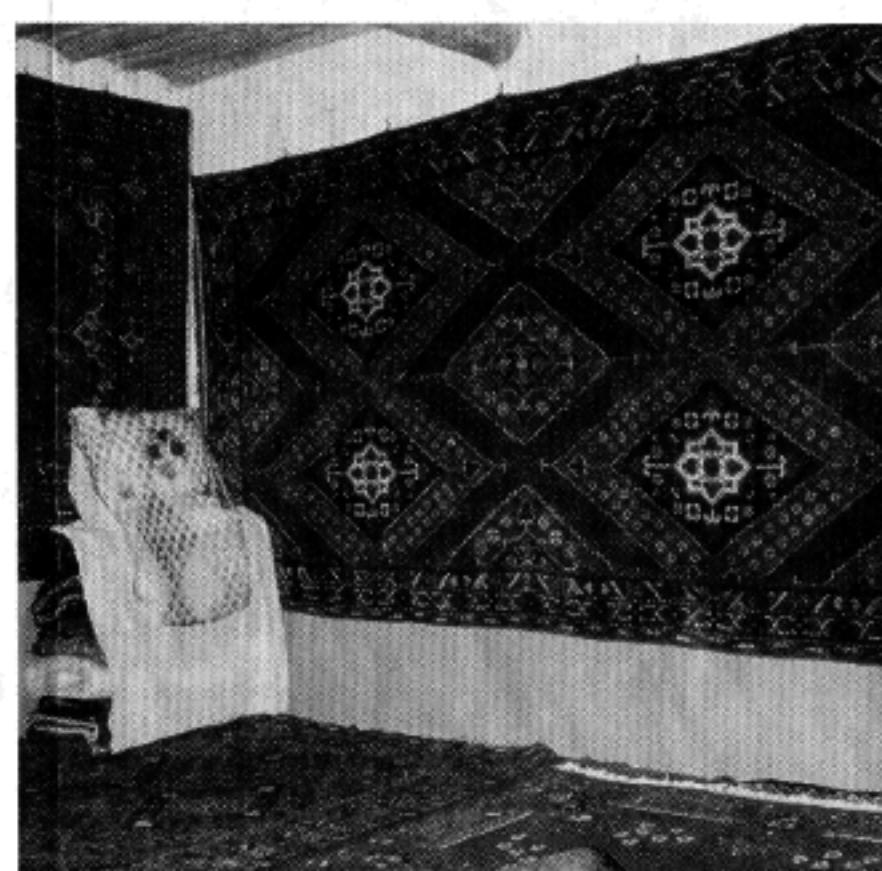
族など少数民族の宝庫であり、その天地であった。近代の国境と国家という概念ができるまでは、時に漢族の中国やチベット系の強大な支配を受けつつも自由な民であった。

ウイグル族は今まで伝えたその仏教ロードのバトンリレー走者だった。



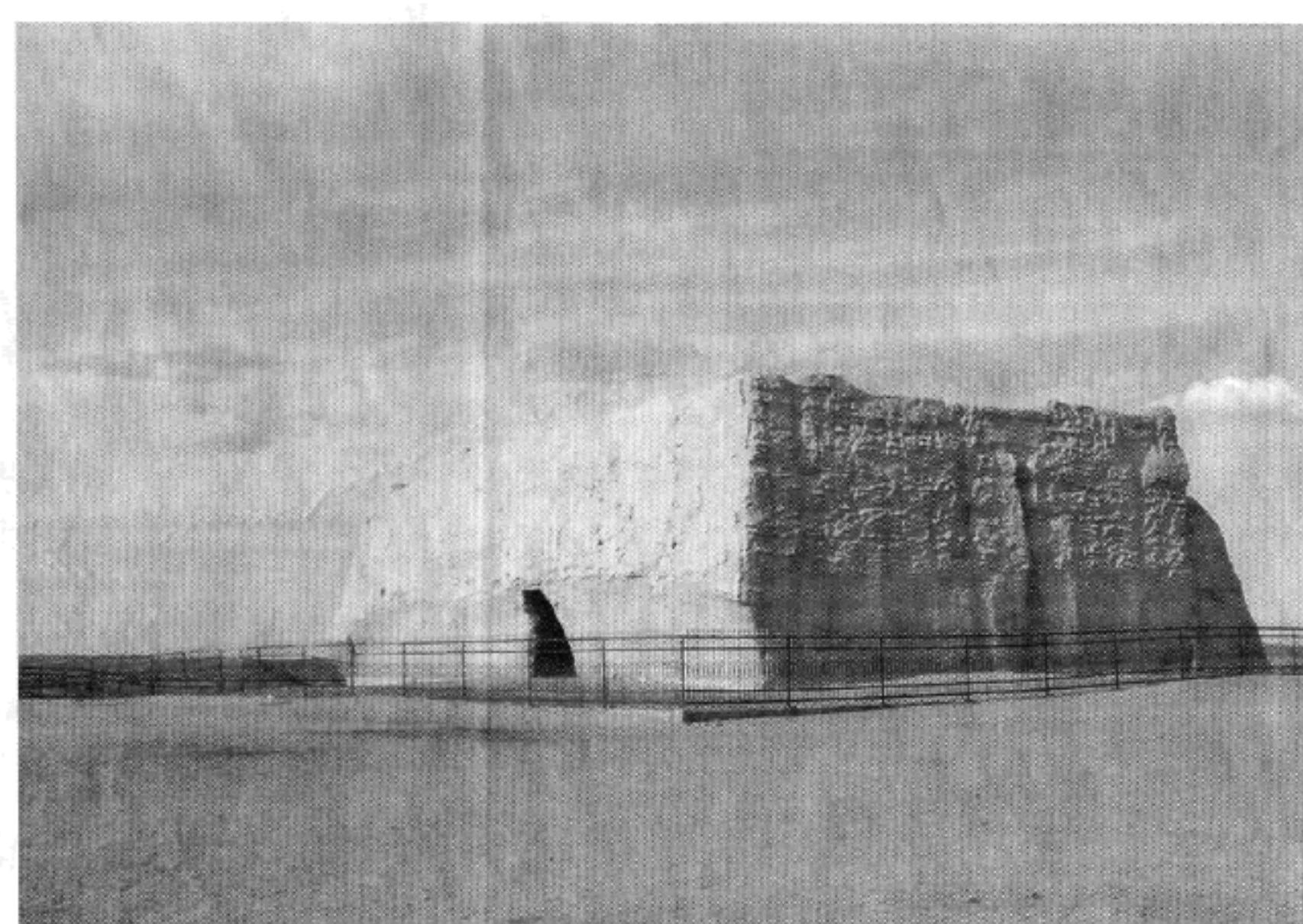
ウイグル族のオアシス内の家々には、どの家にも葡萄棚のテラスがあり、ウリ、スイカ、ナツメなど豊かな果実に恵まれている

の大画廊なのだ。この画廊の果てにわが日本の法隆寺金堂壁画がある。



(上) ウイグル族はトルコ系の血の濃い人たちで家の内部は見事な絨毯が壁にも床にも敷き詰められ、元来遊牧系の暮らしだったことをとどめている

(左) ハミ郊外のウイグル族のオアシスの村。天山山脈から雪解け水が水路で導かれており、猛暑の沙漠とはちがって涼やかな空気に満ちている



敦煌郊外にある玉門關の遺跡。西域で産出する貴重な玉(ぎょく)は、この関所を通じて長安や洛陽の皇帝、貴族のもとに運ばれた。かの三藏法師のモデルとなった唐時代の玄奘三藏もここを経てインドに向かった

今はどちらも土の塊が林立している寂莫とした風景だが、かつての日干し煉瓦で築かれた壯大な様相をしのぶことができ、かの玄奘三藏もしばらく滞在していた。

ウイグル族は、かつてもっと西



敦煌郊外にある漢時代の万里の長城。もっとも古いもので沙漠の土と草を交互に積みあげて構築した

の草原地帯で遊牧を営んでいたと思われるが、次第に他民族に圧迫され、これらのオアンスに定住したようだ。

現在は中国領の版図の内にあるが、ウイグル語を話し、日常的にウイグル絣の洋服を着て、いわゆる中国文化とはまったく異なる独立自尊の気風スタイルを通している。

沙漠が広大な海だとするとオアンスは島である。近代に入

るまでその隔絶された地理的

条件が、中国スタイルに同化し

て溶けてなくならずに済んだ

のだろう。

悠々としたその風貌になぜか親しみを覚えるのは、やはり私たちの遠い記憶のせいだと思

わざるを得ないのだ。

今は田舎なので、ご法事の時は檀家の人々が寺に壇飾りを取りにいらつしやる。床の間に壇を飾り、花瓶(けびょう)、燭台(じょくだい)、そしてお餅やお菓子、果物をお供えする道具でサンボーという物を飾る。檀家の人、「これは、サンボーと言うのだけれども、漢字で書けばどのように書くか知ってる?」と尋ねると、「サンボーぐらい知ってるわ、三宝やろ」という答が返ってくる。「残念でした」。

仏教語でサンボーと言えば、まず三宝という言葉が浮かんで来るだろう。「篤く三宝を敬え。三宝とは佛法僧なり」これは、聖徳太子の「十七条憲法」の第2条(二曰)。第1条(一)

曰は、「和を以て貴しとなす」。

この三宝は、佛・法・僧のことだ。ということは三宝という漢字ではない。佛さんやお坊さんがお餅を載せる訳ないのである。

ほとけ、これはサンスクリ

ット語で「目覚めた人」「悟

つた者」などを意味にする。

「ブツダ」に、書道家とかにつける「家」をつけて、「ぶつだけ

と言っていたのを音写して、

浮屠家(ふとけ)としたこと

に由来する。ここからほとけ

と言った言葉ができた。法は、

サンスクリット語でダルマ。僧は、

サンスクリット語で集団とい

うサンガの音写「僧伽」の略だ。

仏具で必ず必要のが、香炉やローソク立。香炉1基・ローソク立1対・花立1対の

日本語になつた「インド」は二方!!

鳴沙千佛

涅槃樂土

彼岸彩窟
飛天淨巖

敦煌千佛彼岸賦

計5個で1セットである。これを五具足という。省略する場合は、香炉1基・ローソク立・花立を各1個として三具足(みつぐそく)と呼ぶ。三具足で飾るときは、ローソク立をお供えする道具でサンボーという物を飾る。檀家的人に、「これは、サンボー」と言うのだけれども、漢字で書けばどのように書くか知ってる?」と尋ねると、「サンボーぐらい知ってるわ、三宝やろ」という答が返ってくる。「残念でした」。

向かって右、左とか、南に

面して右、左とか話しがややこしくなるが、許てほしい。

お籠飾りは御所の柴宸殿を模

したひいななのだから、あくまで御所に習うのがきまり。

子南面す」の言葉の通り、天皇は常に南に向かい、常に日

の出ずる東側にお座りになる

というわけだ。南に向かうと東は左になる。京都は、御所から南に向かって右が右京区、左が左京区だ。右近の橋に左近の桜、全て御所にならって

いる。ちなみに向かって右が左より上。お位牌でも、向か

つて右に男性の戒名を刻む。

昔の結婚式は、向かって右が新郎だったはずである。

お籠飾りも、今は向かって

右に女籠だが、古い形式は右

が男籠だ。内裏から見て右近

の橋、左近の桜は変わらない。

左様でござりますか

左様なら」とか、「あなたの右

に出る者は居ません」とか、

言葉の中にもそれが伺える。

サンボーは、折敷というお

盆の下に台を付けた物で、そ

の台には一般的に正面、右、

左の三方に穴が開いているので、

形からきた呼び方で三方「さ

んぽう」である。

天空一碧
流沙大漠
天馬空行
神通菩薩

敦煌莫高窟頌

流沙菩薩
瑠璃淨土
悟空悟淨
色即是空

西域大乘心頌

瑠璃極楽
兜率淨土
大無量壽
蓮華化生

敦煌淨土往生頌

◆東天光作◆

第四回 四行漢字詩入選者発表!!

選者・東天光

●莫高窟にて(千葉・小出しづゑ)

●願永輝詩(東京・阿部里奈)

風信

飛天舞奏

古残画想

未人離心

シルクロード特集となりました。

【特選】

●ベゼクリク(東京・岡田知子)

火焰石窟
此世淨土
千年微笑

瑠璃菩薩
(訳) 火焰山の中にその石窟はある。いにしえの人々は此の世に淨土を現した。千年間、瑠璃の青色は変わらず菩薩はほほ笑み続ける。

(評) トールファン郊外の有名なべゼクリク千仏洞を詠んだものだが、その情景が素直に浮かんでくるよ。

(評) 平易で分かりやすが好印象を与えていた。「此世」は、「此岸」と仏教語の言い回しを一語入れるとさらに格調を添えたと思うが、全体に非の打ちどころがない。

よく読むと二字熟語が隣同士、あるいは対角的に四字熟語として成立するほど連想ゲーム的にリンクしており、四行全体が大きなひとつのまとまりを構成しているのは見事。さらに初めの火炎→赤、最後の瑠璃→青と補色関係を伴つたダイナミズムも隠されている。

(評) 有名人の見識。「方城」としては、「航路」は隊商の道を暗示しているが、素直に「絲路」としてもよからう。リズムもよく、四行目はビシャリとした強さがあり、シルクロードのドラマが彷彿とするようである。

(評) 「雲」と故城のかつての運命を示唆する手もある。あと一步の特選候補。

●當麻寺にて(東京・久保弘子)
寂寥風聞
地黃茫茫
秋風落莫
風急天高
高昌故城
(訳) 故城の遺跡を見渡せばかつての栄華が見る影もなく土塊に寂しい風が吹いている。歴史の中で流れている年月を感じる。秋空が天高く澄み渡る。

(評) 「秋風落莫」は「發で故城のも

う少し推敲で叙事性の極致を獲得。

●砂漠幻影(千葉・安藤静代)
風神雷神
天翔幻影
地黃茫茫
秋風落莫
風急天高
高昌故城
(訳) 砂漠に佇めば、瞬眼前をよぎる風神雷神。あれは幻。目の前には茫々たる黄土。寂寥と風が吹くだけ。

(評) 「風神雷神」の二行が強烈に飛び込んでくるが、しっかりと次の行が受け止めおり躍動感に満ちている。

(評) 「風神雷神」の二行が強烈に飛び込んでくるが、しっかりと次の行が受け止めおり躍動感に満ちている。

(評) 「風神雷神」の二行が強烈に飛び込んでくるが、しっかりと次の行が受け止めおり躍動感に満ちている。

(評) 「風神雷神」の二行が強烈に飛び込んでくるが、しっかりと次の行が受け止めおり躍動感に満ちている。

(評) 「風神雷神」の二行が強烈に飛び込んでくるが、しっかりと次の行が受け止めおり躍動感に満ちている。

シルクロード特集となりました。

●ベゼクリク(東京・岡田知子)

飛天舞奏

古残画想

未人離心

シルクロード特集となりました。

●砂漠幻影(千葉・安藤静代)

飛天舞奏

古残画想

未人離心

シルクロード特集となりました。

●敦煌莫高窟賦(千葉・小谷順子)
飛天舞奏

古残画想

未人離心

シルクロード特集となりました。

●河内丘陵(東京・田中明子)
飛天舞奏

古残画想

未人離心

シルクロード特集となりました。

●玉門関(東京・後藤啓介)
飛天舞奏

古残画想

未人離心

シルクロード特集となりました。

●敦煌莫高窟賦(千葉・小谷順子)
飛天舞奏

古残画想

未人離心

シルクロード特集となりました。

●胡宝河内(東京・田中明子)
飛天舞奏

古残画想

未人離心

シルクロード特集となりました。

●河内丘陵(東京・田中明子)
飛天舞奏

古残画想

未人離心

シルクロード特集となりました。

●玉門関(東京・後藤啓介)
飛天舞奏

古残画想

未人離心

シルクロード特集となりました。

●敦煌莫高窟賦(千葉・小谷順子)
飛天舞奏

古残画想

未人離心

シルクロード特集となりました。

●河内丘陵(東京・田中明子)
飛天舞奏

古残画想

未人離心

シルクロード特集となりました。

●玉門関(東京・後藤啓介)
飛天舞奏

古残画想

未人離心

シルクロード特集となりました。

●敦煌莫高窟賦(千葉・小谷順子)
飛天舞奏

古残画想

未人離心

シルクロード特集となりました。

●河内丘陵(東京・田中明子)
飛天舞奏

古残画想

未人離心

シルクロード特集となりました。

●玉門関(東京・後藤啓介)
飛天舞奏

古残画想

未人離心

シルクロード特集となりました。

●敦煌莫高窟賦(千葉・小谷順子)
飛天舞奏

古残画想

未人離心

シルクロード特集となりました。

●河内丘陵(東京・田中明子)
飛天舞奏

古残画想

未人離心

シルクロード特集となりました。

●玉門関(東京・後藤啓介)
飛天舞奏

古残画想

未人離心

シルクロード特集となりました。

●敦煌莫高窟賦(千葉・小谷順子)
飛天舞奏

古残画想

未人離心

シルクロード特集となりました。

●河内丘陵(東京・田中明子)
飛天舞奏

古残画想

未人離心

シルクロード特集となりました。

●玉門関(東京・後藤啓介)
飛天舞奏

古残画想

未人離心

シルクロード特集となりました。

●敦煌莫高窟賦(千葉・小谷順子)
飛天舞奏

古残画想

未人離心

シルクロード特集となりました。

●河内丘陵(東京・田中明子)
飛天舞奏

古残画想

未人離心

シルクロード特集となりました。

●玉門関(東京・後藤啓介)
飛天舞奏

古残画想

未人離心

シルクロード特集となりました。

●敦煌莫高窟賦(千葉・小谷順子)
飛天舞奏

古残画想

未人離心

シルクロード特集となりました。

●河内丘陵(東京・田中明子)
飛天舞奏

古残画想

未人離心

シルクロード特集となりました。

●玉門関(東京・後藤啓介)
飛天舞奏

古残画想

未人離心

シルクロード特集となりました。

●敦煌莫高窟賦(千葉・小谷順子)
飛天舞奏

古残画想

未人離心

シルクロード特集となりました。

●河内丘陵(東京・田中明子)
飛天舞奏

古残画想

未人離心

シルクロード特集となりました。

●玉門関(東京・後藤啓介)
飛天舞奏

古残画想

未人離心

シルクロード特集となりました。

●敦煌莫高窟賦(千葉・小谷順子)
飛天舞奏

古残画想

未人離心

シルクロード特集となりました。

●河内丘陵(東京・田中明子)
飛天舞奏

古残画想

未人離心

シルクロード特集となりました。

●玉門関(東京・後藤啓介)
飛天舞奏

古残画想

未人離心

シルクロード特集となりました。

●敦煌莫高窟賦(千葉・小谷順子)
飛天舞奏

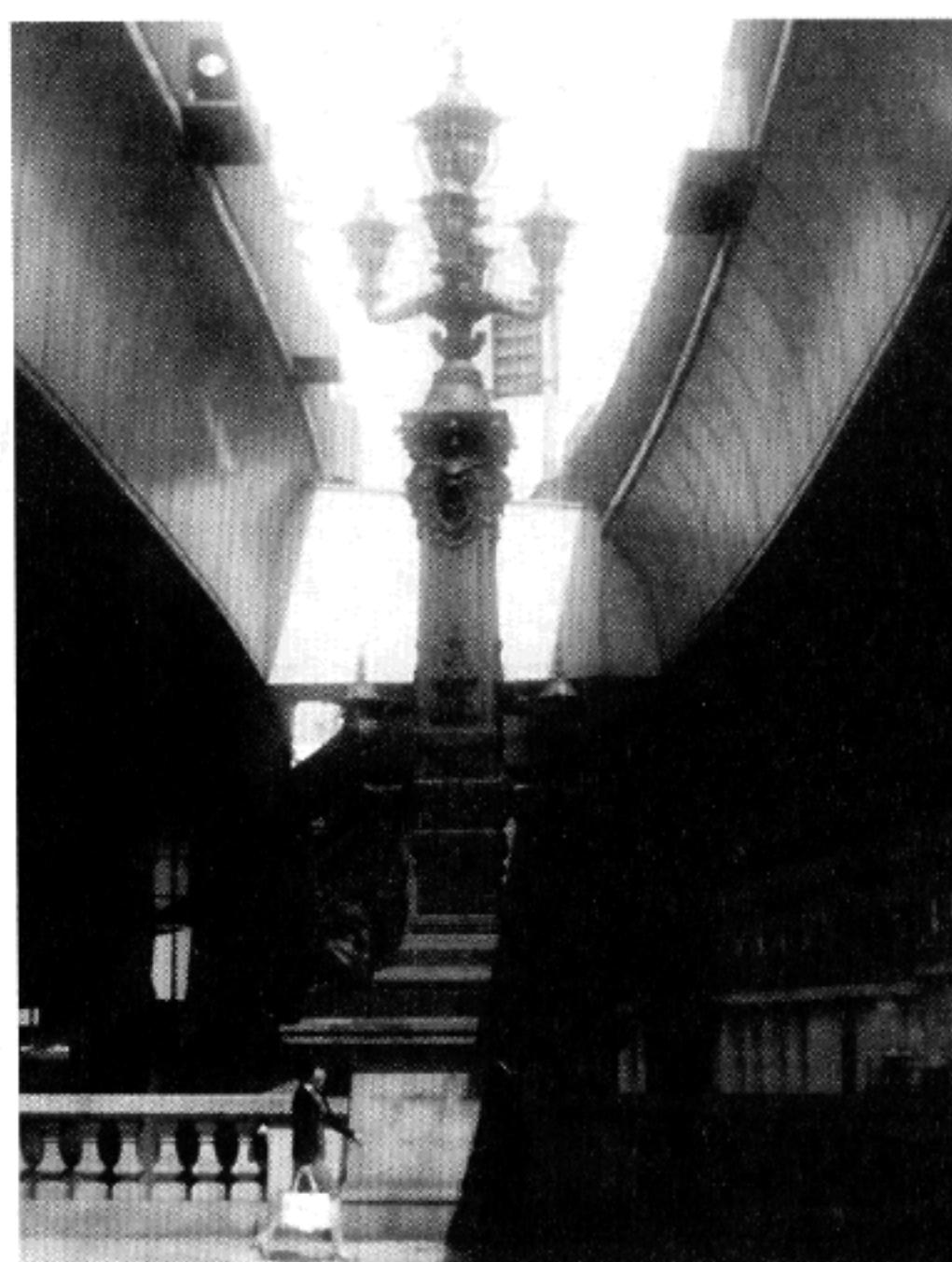
古残画想

未人離心

シルクロード特集となりました。

●河内丘陵(東京・田中明子)
飛天舞奏

古残画想



東京オリンピックで失った空が戻るのは、新東京オリンピックの開催が実現されるときだろうか

エッフェル塔、鉄橋、駅舎など
市バビロンのバベルの塔の物語であろうか。イタリア・ピサの大聖堂の斜塔を思い浮かべる人もいるだろう。奈良の法隆寺や京都の東寺の五重塔などの仏塔もある。あるいは天守閣のように「権威」の象徴として建てる場合もある。様々な理由はあるが、これらのものがその時代の最高の技術を集めた「シンボルタワー」であることに間違いはない。

パリのエッフェル塔は、これらのような信仰、宗教、力の象徴でないが、1889年にフランス革命100周年を記念して行われたパリ万国博覧会に向け、当時の技術の粹を集めて建造された。高さ301m(後に324m)、重さ約7000t。鋼鉄ではなく鍛鉄で造られている。建築期間は2年2ヶ月という短さだった。建築責任者のギュスターヴ・エッフェル。

建築の設計思想から軽量の鉄骨構造の設計思想から軽量の鉄骨

「塔」という言葉から連想されるものは何であろうか。古代メソポタミアの中心都市バビロンのバベルの塔の物語であろうか。イタリア・ピサの大聖堂の斜塔を思い浮かべる人もいるだろう。奈良の法隆寺や京都の東寺の五重塔などの仏塔もある。あるいは天守閣のように「権威」の象徴として建てる場合もある。様々な理由はあるが、これらの

もののがその時代の最高の技術を集めた「シンボルタワー」であることに間違いはない。

東京タワーが完成したのは1958年。設計者は内藤多仲(たちゅう)。今後のテレビ時代を迎えるにあたり、33mは電波塔として必要な高さであつたらしいが、エッフェル塔の高さを意識したことは2年2ヶ月という短さだった。

五重塔を徹底研究し、免震構

造の設計思想から軽量の鉄骨

セーヌ川に浮かぶ遊覧船(パトーム・シユ)に乗り、エッフェル塔やノートルダム寺院を見ながら、生演奏と食事とワインで過ごすひとときは、それなりに塔と川と街が調和した姿ではなかろうか。

東京タワーが完成したのは1958年。設計者は内藤多仲(たちゅう)。今後のテレビ時代を迎えるにあたり、33mは電波塔として必要な高さであつたらしいが、エッフェル塔の高さを意識したことは2年2ヶ月という短さだった。

五重塔を徹底研究し、免震構

造の設計思想から軽量の鉄骨

セーヌ川に浮かぶ遊覧船(パ

トーム・シユ)に乗り、エッ

フェル塔やノートルダム寺院

を見ながら、生演奏と食事

とワインで過ごすひとときは、

それなりに塔と川と街が調和

した姿ではなかろうか。

東京タワーが完成したのは1958年。設計者は内藤多仲(たちゅう)。今後のテレビ時代を迎えるにあたり、33mは電波塔として必要な高さであつたらしいが、エッフェル塔の高さを意識したことは2年2ヶ月という短さだった。

五重塔を徹底研究し、免震構

造の設計思想から軽量の鉄骨

セーヌ川に浮かぶ遊覧船(パ

トーム・シユ)に乗り、エッ

フェル塔やノートルダム寺院

を見ながら、生演奏と食事

とワインで過ごすひとときは、

それなりに塔と川と街が調和

した姿ではなかろうか。

東京タワーが完成したのは1958年。設計者は内藤多仲(たちゅう)。今後のテレビ時代を迎えるにあたり、33mは電波塔として必要な高さであつたらしいが、エッフェル塔の高さを意識したことは2年2ヶ月という短さだった。

五重塔を徹底研究し、免震構

造の設計思想から軽量の鉄骨

セーヌ川に浮かぶ遊覧船(パ

トーム・シユ)に乗り、エッ

フェル塔やノートルダム寺院

を見ながら、生演奏と食事

とワインで過ごすひとときは、

それなりに塔と川と街が調和

した姿ではなかろうか。

東京タワーが完成したのは1958年。設計者は内藤多仲(たちゅう)。今後のテレビ時代を迎えるにあたり、33mは電波塔として必要な高さであつたらしいが、エッフェル塔の高さを意識したことは2年2ヶ月という短さだった。

五重塔を徹底研究し、免震構

造の設計思想から軽量の鉄骨

セーヌ川に浮かぶ遊覧船(パ

トーム・シユ)に乗り、エッ

フェル塔やノートルダム寺院

を見ながら、生演奏と食事

とワインで過ごすひとときは、

それなりに塔と川と街が調和

した姿ではなかろうか。

東京タワーが完成したのは1958年。設計者は内藤多仲(たちゅう)。今後のテレビ時代を迎えるにあたり、33mは電波塔として必要な高さであつたらしいが、エッフェル塔の高さを意識したことは2年2ヶ月という短さだった。

五重塔を徹底研究し、免震構

造の設計思想から軽量の鉄骨

セーヌ川に浮かぶ遊覧船(パ

トーム・シユ)に乗り、エッ

フェル塔やノートルダム寺院

を見ながら、生演奏と食事

とワインで過ごすひとときは、

それなりに塔と川と街が調和

した姿ではなかろうか。

東京タワーが完成したのは1958年。設計者は内藤多仲(たちゅう)。今後のテレビ時代を迎えるにあたり、33mは電波塔として必要な高さであつたらしいが、エッフェル塔の高さを意識したことは2年2ヶ月という短さだった。

五重塔を徹底研究し、免震構

造の設計思想から軽量の鉄骨

セーヌ川に浮かぶ遊覧船(パ

トーム・シユ)に乗り、エッ

フェル塔やノートルダム寺院

を見ながら、生演奏と食事

とワインで過ごすひとときは、

それなりに塔と川と街が調和

した姿ではなかろうか。

東京タワーが完成したのは1958年。設計者は内藤多仲(たちゅう)。今後のテレビ時代を迎えるにあたり、33mは電波塔として必要な高さであつたらしいが、エッフェル塔の高さを意識したことは2年2ヶ月という短さだった。

五重塔を徹底研究し、免震構

造の設計思想から軽量の鉄骨

セーヌ川に浮かぶ遊覧船(パ

トーム・シユ)に乗り、エッ

フェル塔やノートルダム寺院

を見ながら、生演奏と食事

とワインで過ごすひとときは、

それなりに塔と川と街が調和

した姿ではなかろうか。

東京タワーが完成したのは1958年。設計者は内藤多仲(たちゅう)。今後のテレビ時代を迎えるにあたり、33mは電波塔として必要な高さであつたらしいが、エッフェル塔の高さを意識したことは2年2ヶ月という短さだった。

五重塔を徹底研究し、免震構

造の設計思想から軽量の鉄骨

セーヌ川に浮かぶ遊覧船(パ

トーム・シユ)に乗り、エッ

フェル塔やノートルダム寺院

を見ながら、生演奏と食事

とワインで過ごすひとときは、

それなりに塔と川と街が調和

した姿ではなかろうか。

東京タワーが完成したのは1958年。設計者は内藤多仲(たちゅう)。今後のテレビ時代を迎えるにあたり、33mは電波塔として必要な高さであつたらしいが、エッフェル塔の高さを意識したことは2年2ヶ月という短さだった。

五重塔を徹底研究し、免震構

造の設計思想から軽量の鉄骨

セーヌ川に浮かぶ遊覧船(パ

トーム・シユ)に乗り、エッ

フェル塔やノートルダム寺院

を見ながら、生演奏と食事

とワインで過ごすひとときは、

それなりに塔と川と街が調和

した姿ではなかろうか。

東京タワーが完成したのは1958年。設計者は内藤多仲(たちゅう)。今後のテレビ時代を迎えるにあたり、33mは電波塔として必要な高さであつたらしいが、エッフェル塔の高さを意識したことは2年2ヶ月という短さだった。

五重塔を徹底研究し、免震構

造の設計思想から軽量の鉄骨

セーヌ川に浮かぶ遊覧船(パ

トーム・シユ)に乗り、エッ

フェル塔やノートルダム寺院

を見ながら、生演奏と食事

とワインで過ごすひとときは、

それなりに塔と川と街が調和

した姿ではなかろうか。

東京タワーが完成したのは1958年。設計者は内藤多仲(たちゅう)。今後のテレビ時代を迎えるにあたり、33mは電波塔として必要な高さであつたらしいが、エッフェル塔の高さを意識したことは2年2ヶ月という短さだった。

五重塔を徹底研究し、免震構

造の設計思想から軽量の鉄骨

セーヌ川に浮かぶ遊覧船(パ

トーム・シユ)に乗り、エッ

フェル塔やノートルダム寺院

を見ながら、生演奏と食事

とワインで過ごすひとときは、

それなりに塔と川と街が調和

した姿ではなかろうか。

東京タワーが完成したのは1958年。設計者は内藤多仲(たちゅう)。今後のテレビ時代を迎えるにあたり、33mは電波塔として必要な高さであつたらしいが、エッフェル塔の高さを意識したことは2年2ヶ月という短さだった。

五重塔を徹底研究し、免震構

造の設計思想から軽量の鉄骨

セーヌ川に浮かぶ遊覧船(パ

トーム・シユ)に乗り、エッ

フェル塔やノートルダム寺院

を見ながら、生演奏と食事

とワインで過ごすひとときは、

それなりに塔と川と街が調和

した姿ではなかろうか。

東京タワーが完成したのは1958年。設計者は内藤多仲(たちゅう)。今後のテレビ時代を迎えるにあたり、33mは電波塔として必要な高さであつたらしいが、エッフェル塔の高さを意識したことは2年2ヶ月という短さだった。

五重塔を徹底研究し、免震構

造の設計思想から軽量の鉄骨

セーヌ川に浮かぶ遊覧船(パ

トーム・シユ)に乗り、エッ

フェル塔やノートルダム寺院

を見ながら、生演奏と食事

とワインで過ごすひとときは、

それなりに塔と川と街が調和

した姿ではなかろうか。

東京タワーが完成したのは1958年。設計者は内藤多仲(たちゅう)。今後のテレビ時代を迎えるにあたり、33mは電波塔として必要な高さであつたらしいが、エッフェル塔の高さを意識したことは2年2ヶ月という短さだった。

五重塔を徹底研究し、免震構

造の設計思想から軽量の鉄骨